

駒工県庁で喜び報告

全国高校ロボット競技大会V、準V

第32回全国高校ロボット競技大会（10月26、27日、宇都宮市）で、県勢初の優勝、準優勝を果たした駒ケ根工業高校（駒ケ根市）ロボット研究

製作部キャリー班の部員11人と関係者らが22日、県庁の武田育夫教育長を表敬訪問し、喜びの報告をした。

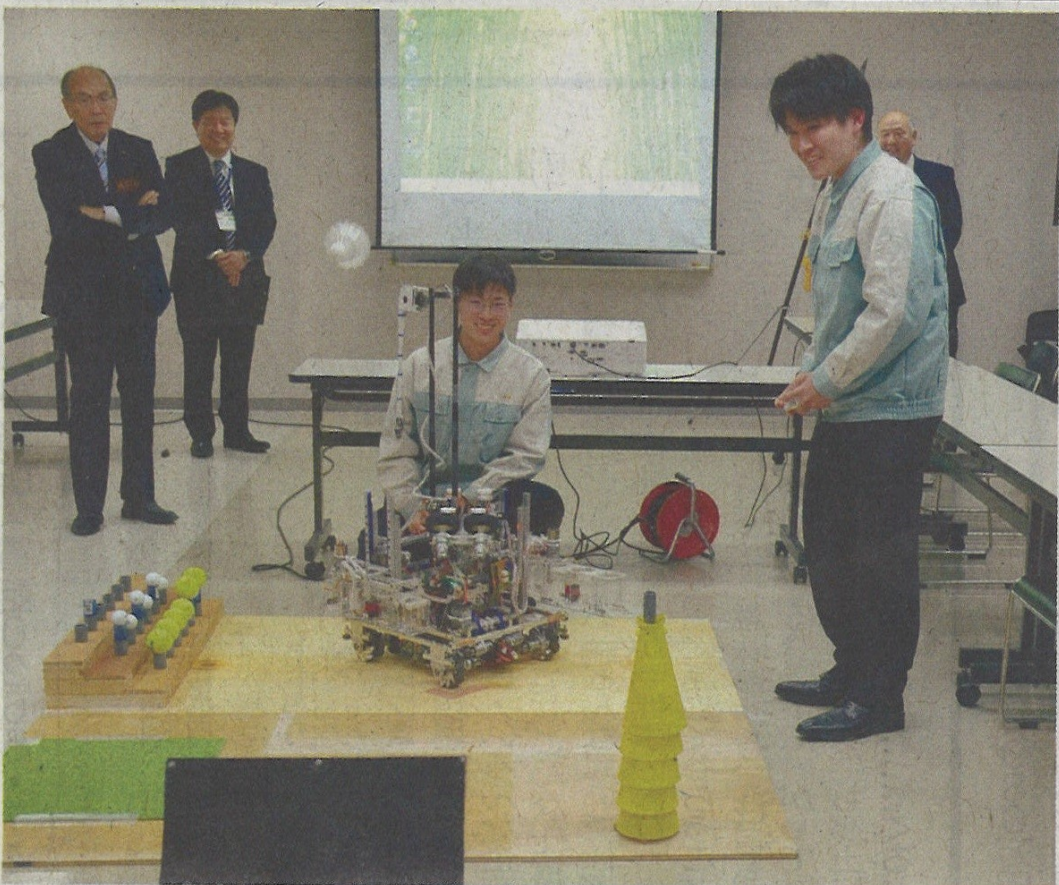
同班はA、Bの2チーム各

5人の編成で、全国大会に臨んだ。大会には37道府県の96チームが出場。3分間の競技時間で、遠隔操作型ロボットと自立型ロボットの2台を連携させてメガホンやボールなどのアイテムを受け渡し、指定されたエリアに設置して得点を競った。同校Bチームが優勝と文部科学大臣賞を獲得し、Aチームも準優勝する快挙を成し遂げた。

表敬訪問では、班長の城倉伸紀さん（18）が「悔いが残らないように思い切りやろう」という気持ちで決勝に臨み、両チームがパーフェクトを出せた」と報告。Bチームリーダーを務めた北澤琉海さん（17）は「勝因となった『安定感』を出すには準備とコミュニケーションが必要だった。部員全員の『チーム駒工』としての総合力で勝つことができた、うれしかった」と語った。

大会映像の鑑賞とロボット競技の実演も行われた。武田教育長は「長野県の高校が好成績を収めてくれるのは素晴らしい、これからも伝統を引き継ぎ、活躍していったほしい」とたたえた。

（久保勇名）



武田教育長⑤を表敬訪問し、全国大会で優勝したロボット競技の一部を実演した駒工ロボット研究製作部員